



今上天皇の御外遊用トランクと製作に携わった職人衆

豊岡には、たくさんの鞆職人がいます。それぞれが専門の分野を担当し、長い年月、同じ作業を黙々と続けています。金具の研磨、メッキ、鞆の縫製、内装の縫製、皮革の縫製、木枠の製造、焼印押印など、それらの職人が揃ってはじめて鞆が出来上がります。

一人の熟練職人がいても鞆は出来ません、豊岡全体で大きな一つの鞆工場なのです。そして、それぞれの職人が日々研鑽し、失敗を重ねた大きな時間の上に、今の豊岡鞆「匠乃革トランク」が産まれます。



三笠宮殿下のシルクハットケースと松本幸四郎様衣装ケース



SONY盛田社長と一緒に海外を飛び回られていたトランク



工場
工場の一角、大きな蔵の隣にあるほこら。

作業の安全、鞆産業の繁栄、そして作られた鞆を使う人々が幸せになるよう、願いをこめます。



機械
革を鋏ぐための機械

長年使い込まれ、よく手入れされた機械は、職人の手先に忠実に反応する。これも一人前の職人なのである。



作業
道具、目、耳、手先の感触と職人の感。これらを駆使して作業が進められる。そこにあるのは「最高の作業をする」という職人であるがゆえの魂。